

令和6年度 小中一貫校南アルプス市立落合小学校 自己評価書 令和7年1月15日(水)

校長 石川 明子

記述者 教頭 中島 則雄

学校教育目標 「よく学び 心豊かで たくましい児童の育成」

◇本年度の取組重点

- ①基礎基本の習得と面白く分かりやすい授業の創造。それらを基にして「思考力・判断力・表現力」の育成を図る（特にすべての学習の基盤となる読み・書き・計算力の確実な定着を図る）。
- ②いじめ・不登校のない学級・学校づくり。思いやりのある学級づくりや学校生活全般（特に授業）にも生徒指導を取り入れた取り組みを目指す。
- ③インクルーシブ教育と特別支援教育の推進。それぞれの子どもの即した指導と、職員の校内支援体制の一層の工夫・充実を図る。また、ノーマライゼーションの考えを育むよう努める。
- ④学校生活の規律確立。「落合小生活のきまり」「落合小学習のきまり」を学校生活の基に据える。また、児童会が作った「落合小こびっとルール」に全員で積極的に取り組む。
- ⑤学習習慣の育成。家庭学習を包括した学習指導。特に、明快な「学習の仕方」を身につけさせ、学習に主体的に取り組む力を高める。
- ⑥体育・食育の重視。生涯を通じて健康な生活を送るために必要な運動習慣、食習慣、衛生習慣を育成する。
- ⑦児童会活動の重視。より良い学校生活づくりのために考え・協力して諸問題を解決していく力を育成する。
- ⑧指定研究の推進。「学びの質を高める授業づくり推進事業」「地域ふれあい道徳事業」「小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」「いじめ・不登校未然防止推進事業」に積極的に取り組み、ICTの効果的な活用、場にふさわしい行動・あいさつ等ができるようにする。
- ⑨安全教育・安全管理の徹底。避難訓練などを通して、「自分の身は自分で守る」知恵と力を育てる。
- ⑩「開かれた学校づくり」の推進。情報を積極的に発信・受信し、家庭・地域・関係機関との連携を深める。

落合小学校教職員による自己評価、児童と保護者によるアンケートを【A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない】の4段階評価で実施した。（保護者のみ E：わからない も設定した。）その回答を「AとBの合計：肯定的評価」「CとDの合計：否定的評価」として割合で示し、【A：4点、B：3点、C：2点、D：1点】として、その平均点をポイントとして算出し、昨年度および一昨年度の結果と比較した。

※アンケートは、教職員・児童・保護者のすべてをウェブ上（Google Forms）で実施した。（回答用紙への直接記入を希望した一部の保護者には用紙を配付した。）

I 全体評価

「肯定的な回答が大勢を占め、総じて評価は高い。（昨年度と同等）」

《評価内容と肯定的な評価割合とポイント》

1 「学校教育目標」 ①～④ 100% 3.7ポイント（R5：3.8ポイント/R4：3.7ポイント）

| | | | |
|---------------|-----|------|--|
| 2 「学校経営・組織」 | ⑤～⑩ | 100% | 3.6 ポイント (R5 : 3.7 ポイント/R4 : 3.7 ポイント) |
| 3 「学習指導・生徒指導」 | ⑪～⑯ | 100% | 3.6 ポイント (R5 : 3.6 ポイント/R4 : 3.5 ポイント) |
| 4 「地域との連携」 | ⑰～⑳ | 100% | 3.6 ポイント (R5 : 3.7 ポイント/R4 : 3.6 ポイント) |
| 5 「学校の特徴」 | ㉒～㉔ | 100% | 3.7 ポイント (R5 : 3.7 ポイント/R4 : 3.6 ポイント) |
| * 6 「小中一貫教育」 | ㉕～㉗ | 100% | 3.4 ポイント (R5 : 3.3 ポイント/R4 : 未実施) |

*令和5年度から甲西地区小中学校（4校）で「小中一貫教育」についての評価項目を設けている。

II 各項目の評価結果（達成状況・改善策）

1 「学校教育目標」

達成状況

- ・①～④の全ての項目において、肯定的評価が100%であった。項目ごとのポイントはすべて3.6ポイントを上回る結果となったが、全ての項目で昨年度を0.1～0.2ポイント下回った。
- ・スクールプランについて、全教職員がその意義を理解した上で、学校教育目標を達成するための学校運営及び教育活動が行われている。

改善策

- ・昨年度よりも0.2ポイント下がった要因として、令和5年度末の異動により半数近くの教諭が入れ替わったことも関係していると思われる。学校教育目標及びスクールプランを再確認することを通じて、目的に合った効果的な教育活動を継続していきたい。
- ・P→D→C→Aのマネジメントサイクルの確立は進んでいるが、そのサイクルが更に効果的かつ効率的なものとなるようにすることが求められる。そのために、「P:明確な目標設定」「D:チームとしての実行力」「C:結果に即したフィードバック」「A:具体的な改善策」を的確に行えるタイムマネジメントを図る必要がある。

2 「学校経営・組織」

達成状況

- ・⑤～⑩の全ての項目において、肯定的評価が100%であった。項目ごとのポイントは、3.5～3.7ポイントとばらつきが見られた。
- ・本校の教職員数では、一人ひとりが担う校務分掌は多くなると同時に、大きな分掌であっても一人で担当しなければならない状況が生じてしまう。そのような中で、自分の分掌は言うまでもなく、他の分掌に関しても互いに声を掛け合い、協力し合いながら教育活動に取り組んできた。
- ・職員会議は、「資料のデータ化」「議事内容の精選」「終礼及び連絡シートの活用」を推進しながら効率化を図ってきた。
- ・今年度は水害を想定した避難訓練を初めて実施した点では、大きな成果があった。しかし、今年度8月に発表された「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」では、夏期休業中だったこともあり、児童への直接的な対応はなかったものの、児童在校中に発表された場合、マニュアルとは異なる突発的に発生する事態にどれだけ対応できるのかに不安を感じた。

改善策

- ・問題が発生した際、特に大切なのは、初期段階において適切な対応がとれたかが重要となる。「相談、連絡、報告」が円滑に行われるよう、教職員同士の平素からのコミュニケーションを活発にすることを継続していきたい。
- ・本校は小規模校であるため、教職員の配置人数が少ない。しかし、校務分掌の数は大規模校であっても小規模校であっても大きな変化はない。そのため、本校では一人ひとりが担う校務分掌は多くなってしまう。来年度は、必要に応じて「主任・副主任」の複数配置も視野に入れて、さらに協働して業務を行える校務分掌の編成を検討していく。
- ・令和7年度は、甲西中学区の4つの小中学校で、大規模災害を想定した児童引き渡し訓練を実施し、災害時における教職員一人ひとりの役割を明確化するとともに、課題を把握し改善策を講じる場とする。
- ・会議の効率化を図れてきているが、複数の担当で原案を作成したり、的を絞った提案をしたりするなど更に改善を加え、効率化を図りたい。

3「学習指導・生徒指導」

達成状況

- ・⑪～⑯の全ての項目において、肯定的評価が100%であった。項目ごとのポイントは、昨年度とほぼ同等の結果となっている。
- ・「基礎基本の『習得』とそれらを『活用』しての『思考力・判断力・表現力』の育成を図っている。」は、3.3ポイントと他の項目に比べて低い数値となった。この項目は過去2年も低い数値（R5：3.2ポイント、R4：3.3ポイント）となっており、継続した指導が必要である。
- ・きまりを守ることと併せて、相手を思いやる指導を日常的に行うことで、児童が落ち着いた雰囲気の中で学校生活を過ごすことができている。
- ・児童会本部が中心となって、児童が主体的に取り組む活動が行われ、その自発的な活動を支援することによって基本的な生活習慣の定着につながっている。
- ・特別支援教育は、特別支援学級の3人の担任を中心に、児童の実態や状況に応じて指導体制や指導方法に柔軟に変更を加えながら対応してきたことで、児童が安心して学べる環境を構築することができた。しかし、心身の両面において常に配慮を必要とする児童や教室にいる子ができない児童への突発的な対応など、大きな負担を伴うものとなっている。

改善策

- ・学力の向上にあたっては、「読み、書き、計算力」の定着は欠くことのできない基礎的な力である。T T、I C T、読書活動、家庭学習、チャレンジテスト等を活用しながら、個に応じたきめ細かな指導を継続していく。
- ・今年度、「主体的・対話的で深い学びのできる児童の育成 ～指導と評価の一体化を通して～」を研究テーマに校内研究で探求してきたことを日常の授業につなげ、確かな学力を定着させるために、研究授業や一人一実践の取組を充実させていく。さらに、各クラスの雰囲気づくりや人間関係についても考慮していく。

4「地域との連携」

達成状況

- ・⑰～⑳の全ての項目において、肯定的評価が100%であった。項目ごとのポイントは、昨年度とほぼ同等の結果となっている。
- ・地域の人材を活用して教育活動がより効果的に行われるように、学校ボランティアの組織を再構築した。児童の登下校における安全確保や賞状の筆耕を担当していただいたことで、家庭や地域と連携した教育活動の足掛かりをつくることができた。
- ・学校だより、学年だよりを通じて、学校の様子を保護者や地域に積極的に発信した。また、年度当初に設定していた学校開放日を取りやめ、「開かれた学校づくり」という観点に基づき、いつでも参観できるようにした。特に、講師を招いたり、児童が特別な取り組みをしたりする際には、学年だよりなどで周知し、保護者が来校しやすいように配慮するなど、家庭や地域との連携に努めた。
- ・PTA 理事会の紙上提案や実施回数の削減など、PTA 活動の効率化を図った。また、令和7年度から実施となる組織の改編について検討をおこなった。

改善策

- ・学校ボランティアを有効活用できるように、ボランティアの再募集を行った。現時点での登録人数が5名なので、今後も募集を続けることにより、今後もさらなる拡充を図っていく。
- ・様々な教育活動の実施後に教職員のアンケートを取り、今後のより良い運営に役立てている。しかし、保護者の意見は、日常の連絡帳や12月に実施する学校評価からしか受け取ることができないので、必要に応じて保護者アンケートを実施していく。

5「学校の特色」

達成状況

- ・㉒～㉔の全ての項目において、肯定的評価が100%であった。項目ごとのポイントは、昨年度とほぼ同等の結果となっている。
- ・多くの学年において、地域を題材にした学習に取り組むことにより、郷土への理解が深まるとともに、郷土を大切にしようとする態度を養うことにつながった。
- ・「小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」では、小笠原流の師範を講師に招聘し、児童により実践的な学習活動に取り組ませることができた。

改善策

- ・個や特性に応じた指導は、本校の取り組む重点にも位置付けられており、今年度もその環境づくりに努めてきた。しかし、児童の状況は常に変化するものという認識のもと、他機関との連携を図り、個に応じた指導の研修を通じて実践力の習得および臨機応変な環境整備に努めていく。

6「小中一貫教育」

達成状況

- ・⑳～㉑の全ての項目において、肯定的評価が100%であった。項目ごとのポイントは、昨年度とほぼ同等の結果となっている。
- ・小中一貫教育が2年目に入り、5年生では林間学校における合同活動、6年生ではボッチャによる交流会など、昨年度の研究や成果を土台に、今年度の教育活動を実施することができた。

改善策

- ・問題別研究で動きだして1年目だったので、今後各部会において今年度の取り組みやの成果や課題を見える化することで、甲西地区小中4校の連携を強化していく。
- ・今年度の取り組みを各校および各研究部会において検証し、より効率的で効果的な教育活動を実施していく必要がある。